

# 第37回 阿蘇草原再生協議会

日時：令和5年8月31日（木）

13：30～16：00

場所：国立阿蘇青少年交流の家  
及びリモート

## 次 第

### ○開会あいさつ

#### <第Ⅰ部 通常議事> (13：30～14：30)

- (1) 新規加入構成員および令和5～6年度役員の新任について
- (2) 阿蘇草原再生募金の活動報告
- (3) 各小委員会等開催報告
- (4) 感謝状贈呈
- (5) 座談会アナウンス及びその他

#### ～休憩～ (10分)

#### <第Ⅱ部 座談会> (14：40～15：40)

テーマⅠ：今後の牧野管理の仕組みづくり

テーマⅡ：野草資源の利活用促進

### ○全体総括、閉会あいさつ



# 第 37 回 阿蘇草原再生協議会

## 会議資料一覧

- 議事(1) 資料 1 - 1 新規加入構成員案について
- 議事(1) 資料 1 - 2 令和 5～6 年度協議会幹事の新任について
- 議事(2) 資料 2 阿蘇草原再生募金について
- 議事(3) 資料 3 - 1 牧野管理小委員会 アクションプラン進捗報告
- 議事(3) 資料 3 - 2 草原環境学習小委員会 アクションプラン進捗報告
- 議事(3) 資料 3 - 3 阿蘇草原再生情報戦略会議報告
- 議事(3) 資料 3 - 4 阿蘇地域世界農業遺産 令和 5 年度事業計画について
- 議事(5) 資料 4 第Ⅱ部座談会の進め方について

参考資料 1 第 36 回阿蘇草原再生協議会 議事概要

参考資料 2 令和 5 年度協議会スケジュール

## 新規加入構成員案について

## ■新規加入希望者

第 36 回協議会（2023.3.3）以降、3 団体から加入の申し込みがあった。設置要綱 6 条に基づき、今回の第 37 回協議会に新規加入構成員案について提案する。

分類	地域	所属	構成員名
区・牧野組合等	熊本県	二区坂下牧野組合	井 雅隆
団体	加入理由		
	放牧や採草などをこれまで行ってきています。牧野カルテ調査実施後の牧野道設置に期待しています。		

分類	地域	所属	構成員名
区・牧野組合等	熊本県	融和牧野組合	渡邊良作
団体	加入理由		
	牧野カルテ調査実施後の牧野道設置における協力や、放牧・採草などの草原の利活用を継続させたいです。組合内で協議会の取組や提案などを共有していけららと考えています。		

分類	地域	所属	構成員名
区・牧野組合等	熊本県	狩尾南山原野管理組合	永富傳次
団体	加入理由		
	野焼きや朝草刈りを続けて行ってきています。田園空間博物館とタイアップし、原野内でのサイクリングを始めたいと考えています。 協議会では原野の収益をあげるための検討を期待します。		

## (参考) 協議会構成員数

分類	構成員数
第 36 回協議会（令和 5 年 3 月）	2 6 3（団体法人 1 8 7、個人 7 6）
現在（令和 5 年 8 月 8 日時点）	2 6 3（団体法人 1 8 7、個人 7 6）
第 37 回協議会（令和 5 年 8 月）	2 6 6（団体法人 1 9 0、個人 7 6）※

※加入承認された場合

## 令和5～6年度協議会幹事の新任について

令和5～6年度の幹事について、西湯浦牧野組合から、辞任及び後任幹事として農事組合法人湯浦牧場の指名があり、「阿蘇草原再生協議会設置要綱」第11条第3項に基づき、湯浦牧場の選任について今回の第37回協議会で提案する。

なお、熊本県畜産農業協同組合阿蘇高岳会から辞任の申出があったが、設置要綱上幹事は30名程度とされているため、現時点での補充は行わない。

## ■令和5～6年度 幹事の選任（案）

	分類	団体、法人名/個人名	備考
1	区・牧野組合等	阿蘇市 町古閑牧野組合	継続
2	区・牧野組合等	阿蘇市 農事組合法人黒川牧野組合	継続
3	区・牧野組合等	阿蘇市 農事組合法人湯浦牧場	新任
4	区・牧野組合等	南小国町 山鳥川牧野組合	継続
5	区・牧野組合等	産山村 竹の畑牧野組合	継続
6	区・牧野組合等	南阿蘇村 下碓牧野組合	継続
7	区・牧野組合等	高森町 小倉原牧野組合	継続
8	区・牧野組合等	西原村 小森原野組合	継続
9	地元農林畜産家	中村和章	継続
10	地元NPO/NGO等	公益財団法人阿蘇グリーンストック	継続
11	地元NPO/NGO等	公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター	継続
12	地元NPO/NGO等	NPO法人九州バイオマスフォーラム	継続
13	地元NPO/NGO等	公益財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団	継続
14	地元関係者	坂梨仁彦	継続
15	地元NPO/NGO等	野焼き支援ボランティアの会	継続
16	学識・研究者	岡本智伸	継続
17	学識・研究者	高橋佳孝	継続
18	関係機関	阿蘇地域世界農業遺産推進協会	継続
19	関係機関	熊本県阿蘇家畜保健衛生所	継続
20	行政	環境省九州地方環境事務所 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所	継続
21	行政	農林水産省九州農政局農村振興部農村環境課	継続
22	行政	熊本県企画振興部 地域・文化振興局地域振興課	継続
23	行政	阿蘇市経済部農政課	継続
24	行政	小国町産業課	継続
25	行政	南小国町農林課	継続
26	行政	産山村経済建設課	継続
27	行政	高森町農林政策課	継続
28	行政	南阿蘇村農政課	継続
29	行政	西原村産業課	継続
30	行政	山都町蘇陽支所	継続
	事務局	阿蘇草原再生協議会事務局	

## 阿蘇草原再生募金について

## 一、募金状況および 2022（令和 4）年度阿蘇草原再生募金収支決算報告および監査について

## (1) これまでの募金額（2023 年 3 月まで）

期	期間	募金件数と金額		備考
第1期	2010年11月～2013年3月	4,092件	70,123,673円	
第2期	2013年4月～2016年3月	764件	32,598,128円	
第3期	2016年4月～2019年3月	451件	41,645,961円	※ヒゴタイ基金 2270万含む
第4期	2019年4月～2022年3月	467件	14,178,525円	※ヒゴタイ基金 103万含む
第5期	2022年4月～2023年3月	133件	4,755,928円	
計		5,907件	163,302,215円	

## (2) 2022 年度の募金収入状況（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

内容	金額	備考
個人ほか	268,904 円	定期的お振込み 2 名
企業寄付 (3,553,667 円)	1,511,294 円	イオン九州 (WAON カード)
	1,000,000 円	コカ・コーラボトラーズジャパン
	250,000 円	伊藤園
	300,000 円	NOK 熊本事業場 (2 年分)
	220,000 円	すし市場
	152,925 円	GS コーポレーション
	55,000 円	メッツ研究所、なごみ食堂、八菜家
	64,448 円	クオカード寄付
募金箱	309,870 円	5 9 件
募金キャンペーン	42,717 円	ロアッソ試合会場 (2022 年 10 月)
ネット募金	73,709 円	Yahoo ネット募金
自動販売機収入	507,061 円	阿蘇郡市内、大津町で 10 台
合計	4,755,928 円	

### (3) 2022 年度(令和 4 年度)の募金活動について報告

2022 年度の募金収入は、引き続き新型コロナウイルスの影響もあり、厳しい年と思われていましたが、企業などからの協力や募金箱回収、個人寄付など皆さまのご協力により、目標額を若干上回りました。

#### ①街頭募金活動（募金キャンペーン）

環境省とロアツ熊本の提携により、試合会場での募金キャンペーンを行いました。

#### ②ロゴマーク使用による協賛商品

ロゴマークを表示した商品の売上げの一部を協議会に寄付いただく仕組みで、今年度は下記より寄付をいただきました。

- 草原とくまモンクオカード（株式会社クオカード） 64,448 円
- はちみつ（八菜家） 5,000 円
- 茅束（GS コーポレーション） 152,925 円

### (4) 募金委員会を開催しました

2023 年 7 月 20 日、熊日本社の会議室にて第 26 回阿蘇草原再生募金委員会を開催し、2022 年度募金の決算報告について承認されました。また欠席の委員含め皆さま全員に引き続き委員を留任していただきました。

募金委員：

(敬称略・順不同)

委員名	所属団体、法人名等	出欠	備考
坂本 正	阿蘇草原再生千年委員会委員長・熊本学園大学名誉教授	出席	
大野 芳範	(公財) 肥後の水とみどりの愛護基金専務理事	出席	
毛利 聖一	熊本日日新聞社業務推進局長	出席	新任
中川 信治	(一社) 九州経済連合会事務局長	欠席	新任
小林 香織	グリーンコープ生活協同組合くまもと理事長	欠席	

※なお、募金委員会では、クオカードの取り扱いについてご意見があり、管理簿をもとに残数を財産目録に入れたほうがよい、との指摘があった。(次年度より反映する)

### (5) 決算報告について

2022 年度阿蘇草原再生募金の収支決算につきましては、第 94 回幹事会で承認されましたので、協議会ではご報告になります。収支決算報告書およびヒゴタイ基金の収支報告は、次ページよりご確認ください。

## 2022年度(令和4年度) 阿蘇草原再生募金 決算報告書

＜自/令和4年4月1日 至/令和5年3月31日＞

収入			備考	
費目	予算	決算(円)		
前期繰越	605万円	6,057,866		
募金収入	450万円	4,755,928	2022年度内計上の募金額	
助成金	320万円	3,185,931	世界農業遺産基金からの協力金(216.2万) ヒゴタイ基金より繰り入れ(104万+163,931)	
雑収入		256,520	クオカード売り上げ(484枚×530円)	
利息		62		
収入計	1,375万円	14,256,307		
支出			備考	
費目	予算	決算(円)		
助成支援費 (第12弾(2022年度) あか牛助成)	440万円	3,560,000	繁殖あか牛導入(増頭43頭、維持2頭)	
助成支援費 (第12弾(2022年度) 野ボラ運営管理助成)	200万円	2,000,000	保全システム	
助成支援費 (第12弾(2022年度) その他の助成)	100万円	852,031	助成決定額(8件)	
小計	740万円	6,412,031		
事務局・千年委員会経費	交通費	75万円	159,689	千年委員会関係含む
	消耗品費		44,471	野草紙感謝状印刷代・額・封筒代
	通信費		72,434	郵送費(切手・メール便)
	印刷費		90,466	資料コピー・輪転機使用代・募金ニュース印刷
	会議費		0	
	自販機負担金		69,404	自動販売機の設置料・電気代
	支払手数料		14,520	振込手数料・残高証明書発行手数料
	渉外費		28,050	田川氏および米澤先生奥様死去に伴う供花・弔電
	雑費		10,747	出張時の手土産等
	小計			489,781
クオカード購入費		364,990	クオカード700枚×520円+送料	
支出計	815万円	7,266,802		
収支	560万円	¥6,989,505	次年度へ繰り越し	

## 2022年度ヒゴタイ基金収支報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 収入

費目	金額	備考
前期繰越	17,505,748	肥後銀行
募金収入	0	
受取利息	119	
収入計	17,505,867	

### 支出

費目	金額	備考
事業支援費	1,040,000	第11弾(R3年度)分あか牛導入助成上乘せ分 (2万円×52頭)
事業支援費	650,000	R3年度 草原学習事業
事業支援費	4,000,000	ボランティア育成・野焼き支援活動担当職員育成 (阿蘇グリーンストック)
支出計	5,690,000	
収支	11,815,867	次年度へ繰り越し



## 二、募金による助成支援の状況について

### (1) 第12弾(2022年度)助成事業の報告

#### ○繁殖あか牛導入助成事業

28農家45頭の導入報告があり、交付申請書および増頭・頭数維持証明書等を確認し助成金を交付しました。

**あか牛導入事業実施額 356万円(43頭×8万円、2頭×6万円)**

#### ○その他の助成事業(繁殖あか牛導入助成を除く)

承認を受けた10の事業と野焼き支援ボランティアの運営管理事業については、すべての事業の交付申請書および報告書を確認した上で助成金を交付しました。

その中で、坂本品子さんの「阿蘇・野焼きと草原文化の1年の映像編集」については、コロナによる撮影や編集作業の遅れにより、報告が8月以降になるとのことで、2022年度の助成の延期を決定しました。

また、西湯浦の「恒久防火帯の整備」については、事業の実施ができなかったとのことで、申請の取り下げがありました。

**その他の事業費 852,031円(8事業) ※うち2事業はヒゴタイ基金より拠出**

**野焼き支援ボランティアの運営管理事業 200万円**

#### ■募金による第12弾(2022年度)その他の助成支援事業一覧

No.	申請者	助成枠	申請事業名	決定額(円)	報告書	助成金支払い
1	阿蘇ホテルの会	1及び3	阿蘇北外輪山の古代遺跡調査	30,000	済	30,000
2	小堀牧野組合	1	牧野内の昇降タラップ設置工事	150,000	済	150,000
3	坂梨 仁彦	2	阿蘇北外輪山に生息する希少種コジュリンの生息環境要因に関する研究	160,000	済	160,000
4	国立阿蘇青少年交流の家	3	令和4年度教育事業「阿蘇の草原キッズになろう! ①秋編 ②野焼き編」	150,000	済	148,100
5	坂本品子	3	阿蘇・野焼きと草原文化の1年の映像編集	160,000	保留(2023・8月以降)	
6	車帰原野管理組合	1	草原維持管理の為に牧道防火帯整備	150,000	済	150,000
7	阿蘇草原再生シールの会	3	阿蘇の草原と草原堆肥をPRする農業体験イベントの開催	50,000	済	50,000
8	西湯浦草原再生委員会	1	草原再生活動の維持(恒久防火帯の整備)	150,000	取り下げ	
	小計			1,000,000		688,100
<b>■ヒゴタイ基金より助成支援</b>						
1	黒川牧野坊中区	3	草原環境学習の推進及び広報活動	90,000	済	63,931
2	新宮牧野組合	3	草原環境学習の推進・草原を守る担い手づくり	100,000	済	100,000
	小計			190,000		163,931
<b>■野焼き支援ボランティア運営管理費</b>						
	公益財団法人阿蘇グリーンストック		野焼き支援ボランティアの運営管理費	2,000,000	済	2,000,000
				合計		2,852,031

(2) 第13弾(2023年度)助成事業および予算について

○繁殖あか牛導入助成事業

第13弾あか牛導入助成枠については、ひとり1頭と枠を決めて募集したため、28件28頭の申請となっています。

**事業予算 224万円(28頭×8万円)**

※阿蘇世界農業遺産より支援予定(110万円)

※ヒゴタイ基金からの上乗せは予算(420万)に達したため、2022年度で終了予定。

○その他の助成事業

第36回協議会で助成が承認された7事業および野焼き支援ボランティアの運営管理事業について助成の決定通知を送りました。それぞれの事業者に取り組みを進めていただいています。

**その他の事業 予算 100万円(7事業)**

**野焼き支援ボランティアの運営管理事業 予算 200万円**

■募金による第13弾(2023年度)その他の助成事業 申請一覧

(繁殖あか牛導入助成事業および野焼き支援ボランティア運営管理事業を除く)

No.	申請者	助成枠	新規/継続	申請事業名	申請金額	査定額
1	黒川牧野坊中区 (井澤長英氏)	3	継続	草原環境学習の実施、情報発信の強化	90,000	90,000
2	上野 裕治	2 その他	新規	阿蘇草原ジビエの事業化に関する調査(2)	234,000	200,000
3	車帰原野管理組合	1	継続	牧道、防火帯整備事業	300,000	300,000
4	公益財団法人阿蘇グリーンストック	2	新規	阿蘇地域における希少野生動植物の生育生息調査と分布状況のデータベース化	110,000	110,000
5	阿蘇草原再生シールの会	3	継続	野草堆肥の普及啓発活動	50,000	50,000
6	国立阿蘇青少年交流の家	3	継続	令和4年度教育事業 「阿蘇の草原キッズになろう! ①秋編 ②野焼き編」	299,000	150,000
7	新宮牧野組合(白石博春)	3	継続	草原環境学習の推進・草原を守る担い手づくり	100,000	100,000
	合計				1,183,000	1,000,000

【参考資料】

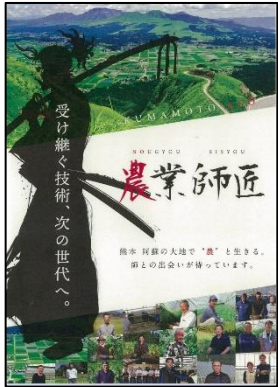
< 2023年度(令和5年度)予算 (案) >

収入			備考
費目	2023予算	2022決算	
前期繰越	700万円	6,057,866	
募金額	450万円	4,755,928	
助成金	110万円	3,185,931	世界農業遺産基金からの助成
他収入	10万円	256,582	クオカード売り上げなど
収入計	1,270万円	14,256,307	
支出			備考
費目	予算		
助成支援費 (第13弾 あか牛助成)	224万円	3,560,000	繁殖あか牛導入(ひとり1頭)
助成支援費 (第13弾 野ボラ運営管理助成)	200万円	2,000,000	保全システム
助成支援費 (第13弾 その他の助成)	100万円	852,031	7事業予定
通常経費・千年委員会関係	70万円	854,771	通信費、印刷コピー費、自販機電気代・土地使用代、事務用品費等、千年委員会関係費用・クオカード購入
支出計	594万円	7,266,802	
収支	676万円	6,989,505	次年度へ繰り越し

牧野管理小委員会 アクションプラン進捗報告

農畜産業への支援の強化

- 世界農業遺産推進協会の実施取組について情報共有を行い、さらなる連携体制の構築に向けて議論を行った。
- あか牛振興に向けて、熊本県の「農業師匠」制度を軸とした新規就農者向け支援メニューの検討を進めている。



牧野管理作業の軽減

- 環境省が取り組む野草地保全・再生事業実施計画の第3期改定に向けて、恒久防火帯整備や小規模樹林地除去などの各種省力化事業の今後の進め方について検討を行った。

支援ボランティアの拡充

- 支援ボランティア活動活性化に向けた施策として、下記取組を実施した。
  - ・令和4年度春の野焼き時に、ボランティアに対してQuoカード396枚を配布。(延べ16牧野が賛同)
  - ・令和5年7月15日に、野焼き支援ボランティアの会の会員総会を熊本城ホールで開催。鳥取大学の日置佳之名誉教授による講演会や懇親会も併せて実施し、79名が出席した。



- 支援ボランティアの拡充に向けた施策として、下記取組を実施した。
  - ・普及啓発パネル展を令和4年度は計4回開催した。(mont-bell 南阿蘇店、鶴屋百貨店、オモケンパーク、アクロス福岡)
  - ・YAMAPファンディングによる草原保全及び登山道整備の支援を募った結果、約2万人の賛同を得て、約80万円の支援を頂いた。



## 草原環境学習小委員会 アクションプラン進捗報告

### 地域内の子どもへの草原学習の実施

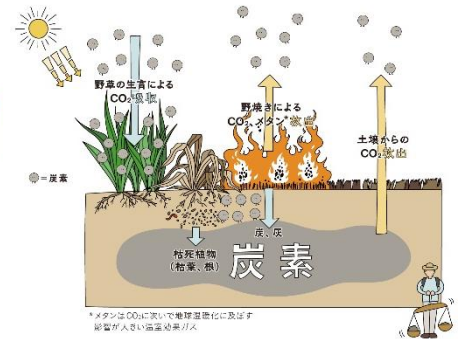
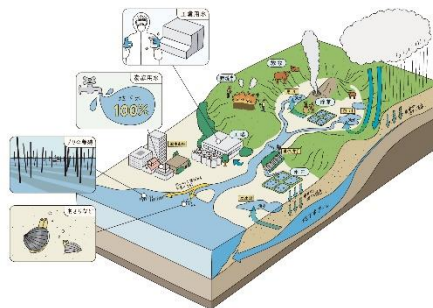
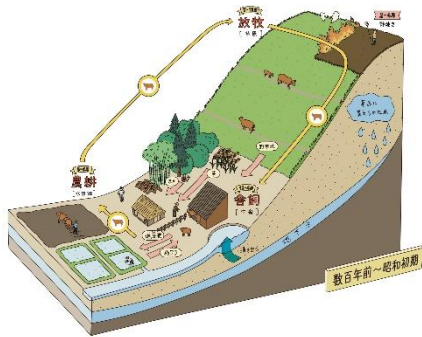
○キッズプロジェクト（※）Ⅳの推進により、今年度は阿蘇郡市内の小学校 17/17 校で、草原学習を実施する方向で調整。

（※）阿蘇地域の全ての子どもたちが、草原に関する一定の知識をもち、阿蘇の草原保全に対する理解を深めることを目標として、取り組むもの。

### 地域内の大人への普及啓発

### 地域外を対象に行う普及啓発への活用

○草原の価値を分かりやすく伝えるための啓発イラスト（全 14 点）の作成  
阿蘇草原再生協議会 HP で公開中



### 草原環境学習の実施体制の安定化・拡充

○「九州の中の阿蘇草原で学ぶ～学習・研修のすすめ～（仮称）」の作成

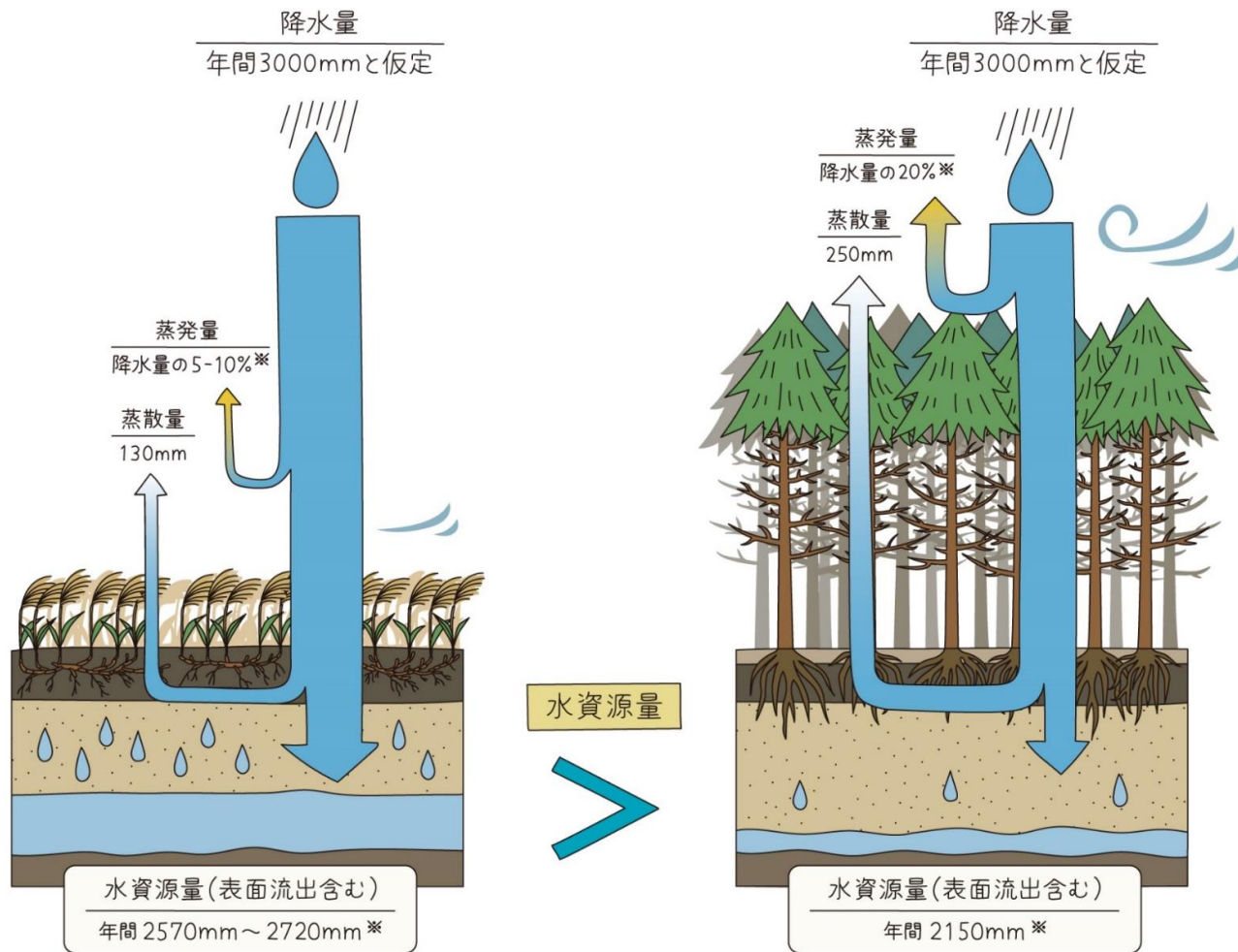
目的	先生が授業の組み立てを考える上で役立つもの、かつ関係者にも有意義なプログラムであると思ってもらうための媒体作成。そのために、草原学習とはどのようなものかの全体像を理解してもらうために作成するもの。
配布対象	地域内外の教育関係者、企業研修の担当者
作成時期	年末に完成・配布予定。

<p><b>阿蘇草原保全活動センター</b> 草原 (草原学習問い合わせ窓口)</p> <p><b>【概要】</b> あか牛とのふれあい学習、動物観察、草小橋づくり体験などのフィールドでの体験学習、施設を活用した屋内での座学、講師派遣など、学校のご都合に合わせて柔軟に学習プログラムを提供することが可能です。</p> <p><b>POINT!</b> 地元畜産農家、昆虫の専門家など、それぞれのプロから直接話を聞くことができます。また、学習成果のまとめに、複数校が参加する学習発表会での発表に参加することも可能です。これらにより「主体的対話的で深い学び」をご提供します。</p> <p><b>学習の様子</b> の 写真</p> <p><b>学習発表会</b> の 写真</p> <p>プログラム紹介① 「草原のスキを使って物をつくらう！」 ・ミニぼうきづくり ・フクロウづくり など</p> <p><b>クラフト</b> の 写真</p> <p>場所 利用人数 所要時間 申込方法 料金 特記事項</p> <p>P1</p>	<p><b>阿蘇火山博物館</b> 火山</p> <p><b>【概要】</b> 阿蘇カルデラの成り立ちとその上に根付いた草原文化について、学芸員から直接専門的に学ぶことができます。</p> <p><b>POINT!</b> 最大の特徴は、何と言っても、天候に左右されないこと。館内に200名を超える人数を一気に収容可能です。</p> <p>プログラム紹介① 「火山と共存する阿蘇もんから学ぶSDGs」</p> <p><b>学習の様子</b> の 写真</p> <p><b>プログラムの写真</b></p> <p>場所 利用人数 所要時間 申込方法 料金 特記事項</p> <p>P2</p>	<p><b>阿蘇ユネスコ世界ジオパーク</b> 地質、文化</p> <p><b>【概要】</b> 阿蘇カルデラと草原の魅力を啓発するために、学校教育向けや観光客向けなど様々な学習プログラムを提供しています。 「遊び」の要素を取り入れて楽しく学習できるプログラムを提供しています</p> <p><b>POINT!</b> ジオパーク最大の強みは、海外も含めた他地域とのネットワーク。ニーズに応じて、他地域との交流学習のアレンジが可能です。</p> <p><b>遊びながら学習する様子</b> の 写真</p> <p><b>海外との交流の様子</b></p> <p><b>プログラムの写真</b></p> <p>具体的な内容は各米浦団体へお問い合わせください ※詳しくは農産部へ</p> <p>P3</p>	<p><b>国立阿蘇青少年交流の家</b> 拠点活動</p> <p><b>【概要】</b> 交流の家を拠点に、関係団体と連携しながら、現場体験型の学習プログラムを多く提供しています。</p> <p><b>POINT!</b> 最大の特徴は拠点。草原に囲まれた立地を活かして、身体を動かしながら学習できるため、様々な発見や体験を得ることが出来ます。また、遠方の学校や団体は、施設に宿泊しながら学習プログラムを受講することも可能です。</p> <p>プログラム紹介① 「オリエンテーリング」 ・ポイント探し ・草原の動物たちに親しむ</p> <p><b>オリエンテーリング</b> の 写真</p> <p>場所 利用人数 所要時間 申込方法 料金 特記事項</p> <p>プログラム紹介② 「ジオ学習プログラム」 ※火種、ジオ連携事業 ・草千里ツアー</p> <p><b>ツアーの</b> 写真</p> <p>場所 利用人数 所要時間 申込方法 料金 特記事項</p> <p>P4</p>
---	---	---	--

<p>会議の 目的</p>	<p>草原再生に関する情報の蓄積・活用策の一環で、「基盤情報を収集・管理して、重要な課題を科学的・客観的に議論し、幹事会に報告・提言する場」として、令和3年度に設置。</p>
<p>会議委員 (常任)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会関係者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋会長（委員長）</li> <li>・山内会長代理</li> </ul> </li> <li>○阿蘇草原に関する科学的視点を有する者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡本先生（東海大学）</li> <li>・島谷先生（熊本県立大学）</li> </ul> </li> <li>○阿蘇草原に関する現場感覚を有する者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷利治氏（下碓牧野）、井周平氏（西原牧野）</li> <li>・阿蘇グリーンストック担当者</li> </ul> </li> <li>○関係行政機関 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所（事務局）</li> <li>・熊本県地域振興課</li> </ul> </li> </ul> <p>※市町村については、議題毎に希望を募り、出席者を決定。  ※議題に応じて、その議題の関係者の出席要請も可能。</p>
<p>R4の主 な検討課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業直接支払制度の実装</li> <li>・水源涵養機能や炭素固定機能に着目した受益者を巻き込む仕組みづくり</li> <li>・防火帯整備の効果的な推進</li> </ul>

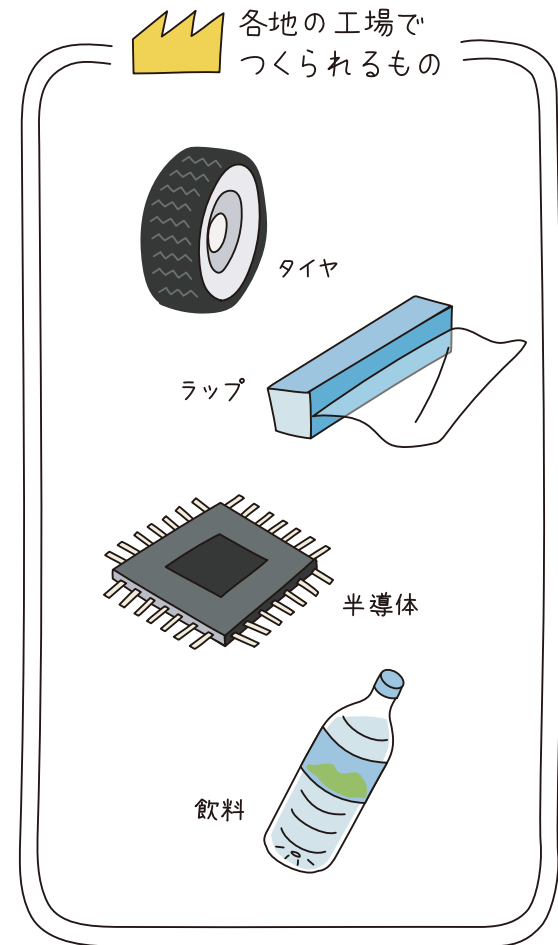
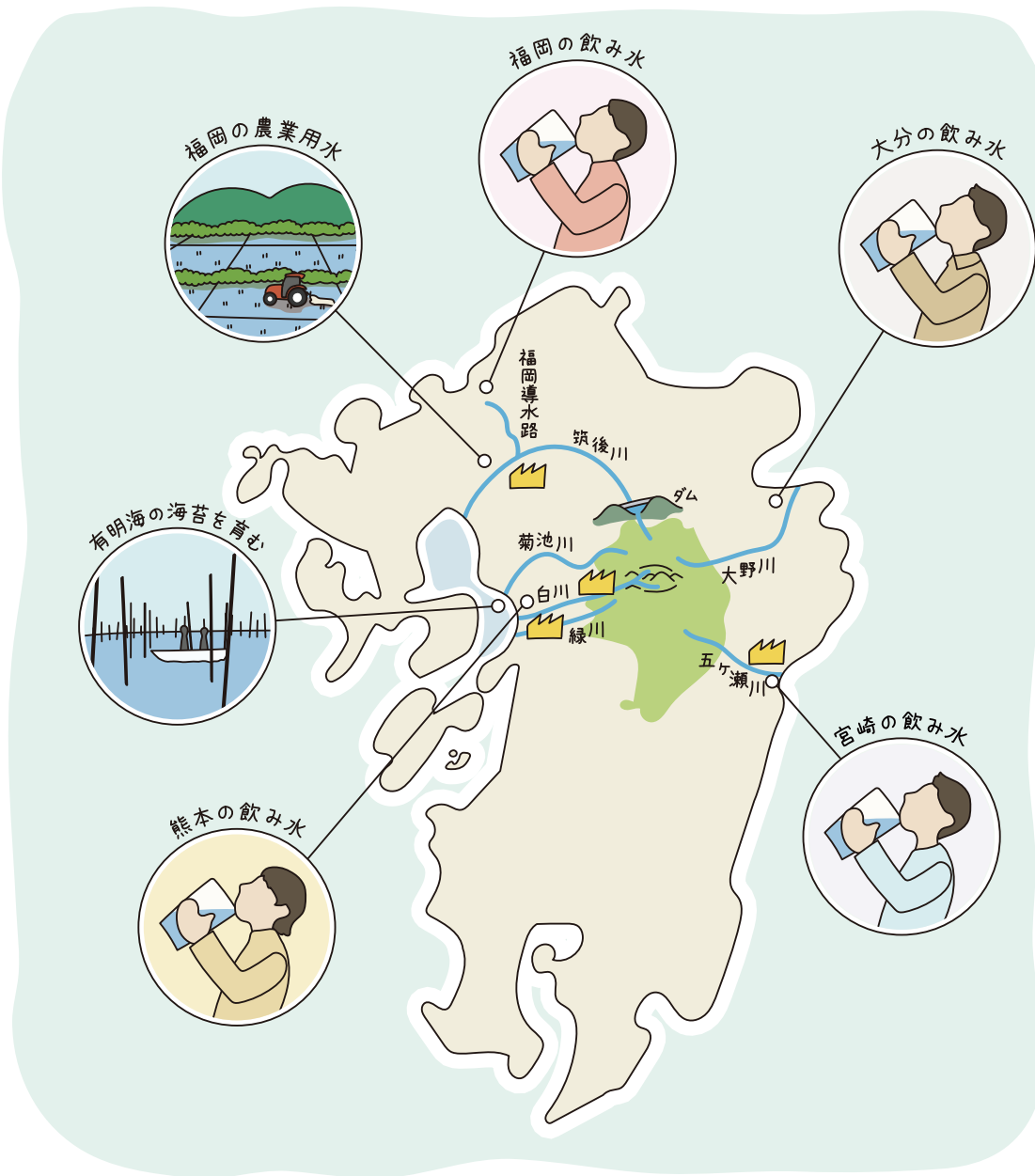
ススキの蒸散量が、スギ・ヒノキと比較して小さいため、ススキ草原は森林と比較して、水資源の涵養機能が大きい。阿蘇草原が九州各県に供給する水資源量は、**486万人** (※) の年間水道使用量に相当。

(※) 草原の水資源涵養量 × 野草地面積 ÷ 1人当たりの年間水道使用量 =  $2,570\text{mm} \times 14,750\text{ha} \div 78\text{m}^3/\text{人} = 486\text{万人}$



※推定値

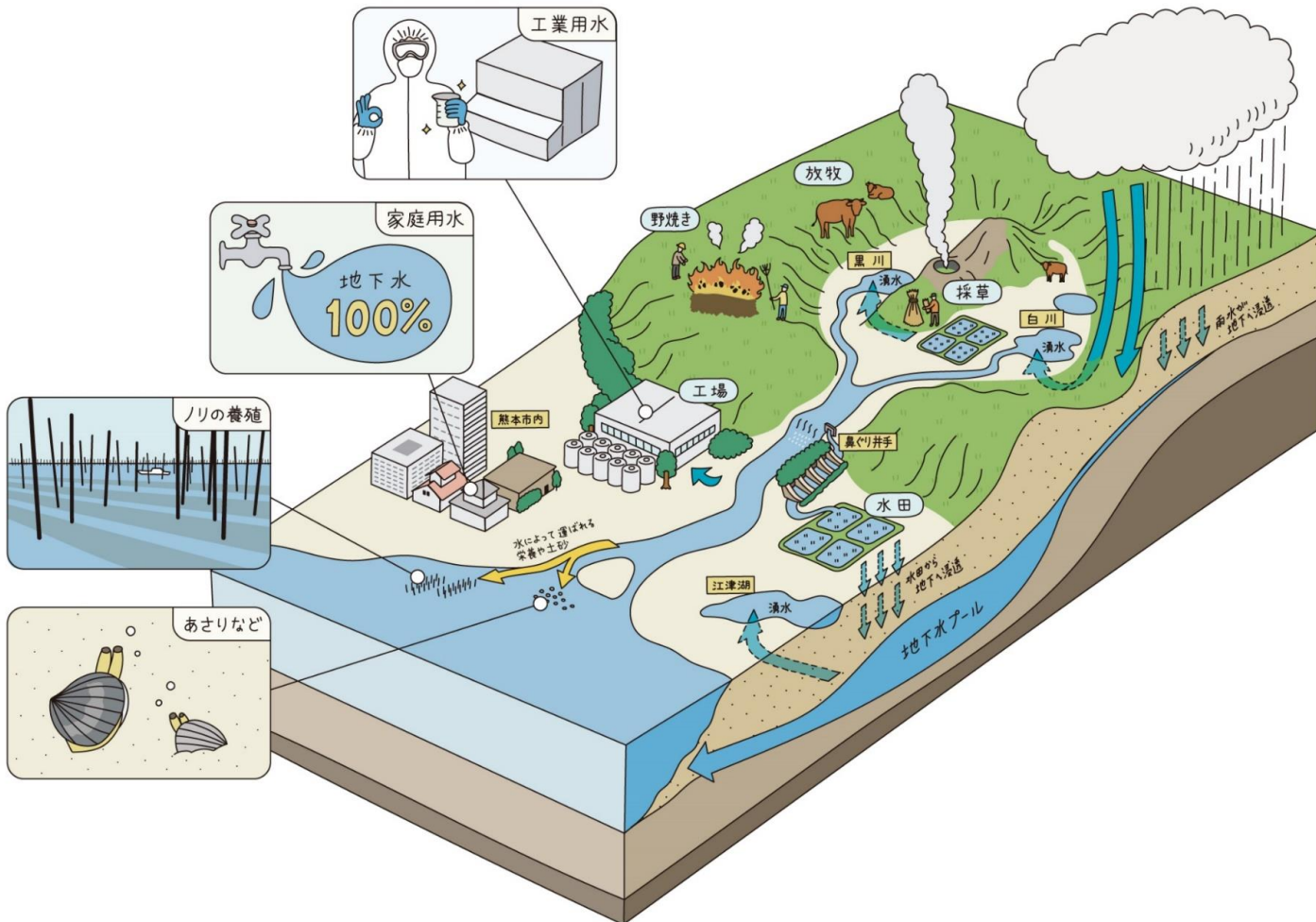
# 公益的機能に着目した受益者を巻き込む仕組みづくり





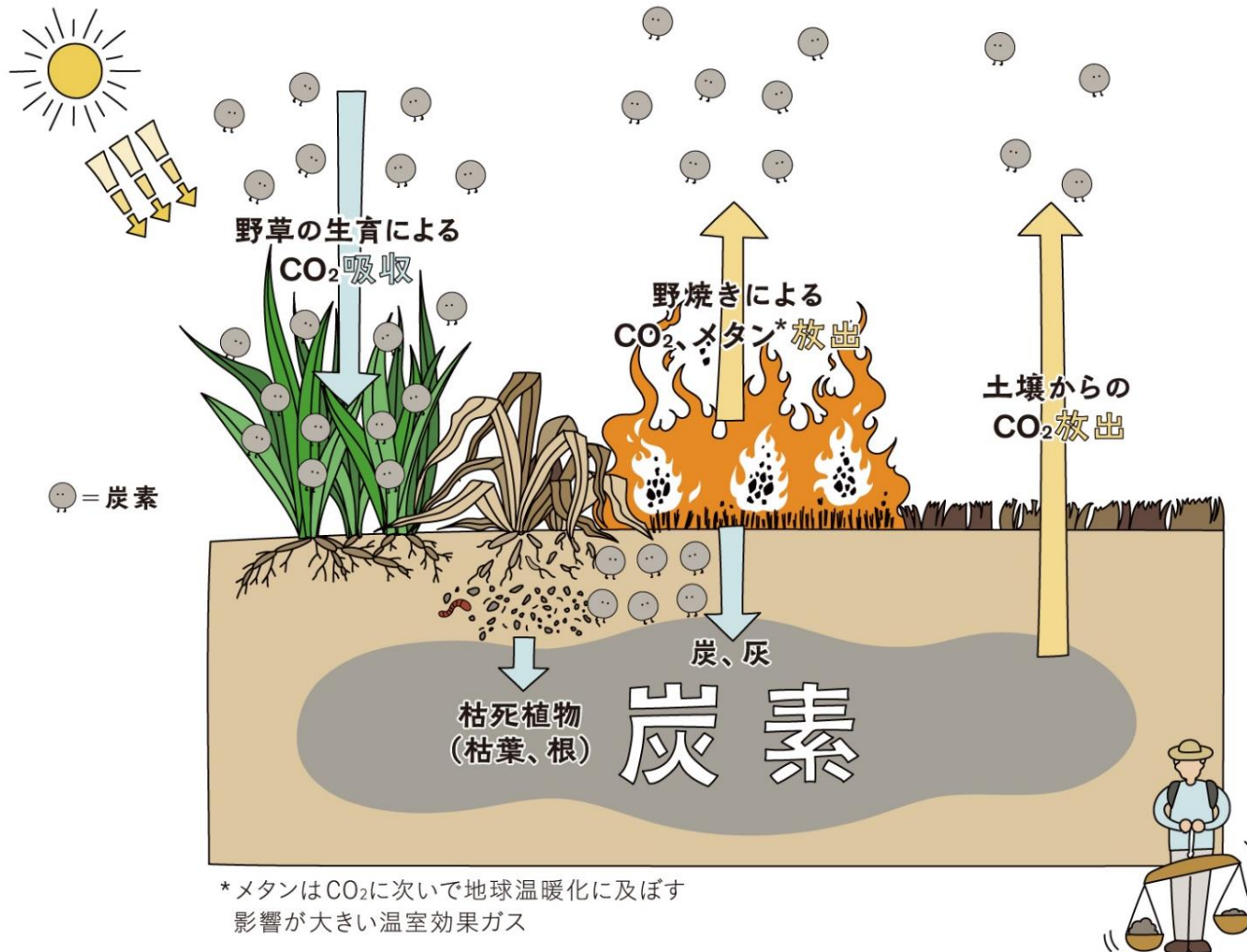
阿蘇カルデラから熊本地域の地下水に供給される水量は、109万人分 (※) の年間水道使用量に相当。白川中下流域の豊かな水・暮らしを支えている。

(※) (立野火口瀬を流れる地下水量+白川中流域で、阿蘇カルデラから流れる白川の水を使うことで地下に涵養される量) ÷ 1人当たりの年間水道使用量 = (1,500万m<sup>3</sup>/年+7,000万m<sup>3</sup>/年) ÷ 78m<sup>3</sup>/人=109万人



阿蘇郡市の全世帯が1年間に排出するCO<sub>2</sub>の1.7倍相当 (※) の量を固定。

(※) 野焼きしている草原土壌の炭素固定速度 × 野焼き面積 ÷ 1世帯当たりのCO<sub>2</sub>排出量 ÷ 阿蘇郡市の世帯数  
= 6.9tCO<sub>2</sub>/ha/年 × 16,912ha ÷ 2.72t/年 ÷ 25,000世帯 = 1.7



\*メタンはCO<sub>2</sub>に次いで地球温暖化に及ぼす影響が大きい温室効果ガス

野焼きが繰り返し行われ続けるからこそ、土壌中に炭素が蓄積され続けるよ。

価値の  
具現化

九州大学島谷特命教授(当時)他による研究等によって明らかにされた、科学的な知見を分かりやすく伝えるための普及啓発ツールを作成  
→冒頭で一部紹介。

情報発信  
啓発

- 草原再生プロジェクトHPのリニューアル
- 動画作成



資金、労力を獲得するための取組

- 企業向け：熊本県と連携し、企業版ふるさと納税獲得に取組について調整中。
- 個人向け：効果的な募金獲得方法の検討開始。



リニューアルした草原再生HP



新たに作成した動画（1分29秒）

## ◎検討方針 ～草原再生プロジェクトと、既存の仕組みのリ・ブランディング～

- ①草原再生に取り組む価値のリ・ブランディング、②既存の仕組みのブラッシュアップ
- ③プロモーション、営業方法の検討 ※①～③により、参画事業者を増やし、好循環を生み出していく。

## ◎これまでの検討の概要

### ①草原再生に取り組む価値のリ・ブランディング

- ・特に、「水」「脱炭素」をキーワードとして、企業が草原再生プロジェクトに参画する価値をブランディングし直す。

### ②既存の仕組みのブラッシュアップ

- ・ 企業版ふるさと納税の支援対象となる新たなプロジェクトの創設
- ・ 自動販売機： 公共施設内の既存自販機の更新時期に、寄付型への変更を提案。
- ・ 協賛商品： 波及力の高い大手企業の協力を得て、協賛商品を造成し、参画企業が増えることを狙う。

### ③プロモーション、営業方法の検討

- ・ 営業資料（仕様、メリット等）の作成。



## ◎今年度のゴール

- ・ 企業版ふるさと納税（企業向け）や、自動販売機・協賛商品を通じた募金獲得（企業を介しての個人向け）を目指し、今年度中に新たな取組を実装させる。

# カーボンクレジット制度導入の検討経過

## ■これまでの検討経緯の概要

令和3年度

### ○草原の炭素化機能に関する解明調査（北海道大学・当真教授と連携）

- ・過年度に実施された北外輪山の調査を踏まえ、南外輪山での調査を実施。

### ○Jクレジット制度の導入検討に関する意見交換会の開催（12/20）

- ・有識者及び阿蘇地域の関係者での意見交換会
- ・制度導入の可能性はあるものとして、今後具体的な課題整理を進めていく方向性となった（参考資料1）

### ○Jクレジット導入に向けた有識者ヒアリング（4/20、11/17、12/2）

- ・Jクレジット導入に向けた課題・問題点を整理。（→P2）

### ○クレジット購入に関心をもつ企業へのヒアリング（11/8）

- ・クレジット購入に関心をもつ企業側が、どのようなニーズを持っているかをヒアリング。（→P3）

令和4年度

### 第5回情報戦略会議：今後の検討方針について意見交換（3/13）

- ・今後のクレジット制度導入に向け、クレジットの種類毎に、実現可能性及び実現に向けてクリアすべき課題を整理。

令和5年度からは、今回整理した方向性で、具体的な導入に向けて検討。

# 草原観光利用の推進（国立公園満喫プロジェクト）

- 口蹄疫対策をはじめとしたルール、草原保全への還元、インタープリテーションのポイントなどを盛り込んだ、アクティビティ事業者向けガイドラインを作成。今年度中に事業者向け講習会も実施予定。
- 商談会への参加など、既存アクティビティのプロモーション支援などを実施中。

## 千年の草原を活用した 持続可能な観光ガイドライン2023 (案)

アクティビティガイド向け



- 01 はじめに
- 02 ガイドラインの目的
- 03 草原の守り人について
- 04 アクティビティガイドの行動原則
- 05 アクティビティガイドのルール、遵守事項
- 06 インタープリテーションにおいて留意するポイント

草原の観光利用に関する  
事業者向けガイドライン



ラペリング体験



商談会への参加

## 阿蘇地域世界農業遺産



## 令和5年度（2023年度）事業計画について

阿蘇地域世界農業遺産は今年度、平成25年度（2013年度）の認定から認定10年の節目を迎える。

令和5年（2023年）4月からは、令和10年（2028年）3月までの5か年間の第3期世界農業遺産保全計画（アクションプラン）に基づいた活動を行っていく。

当協会としては、これまで県及び各市町村からの負担金を財源とする協会事業と、企業等からの寄付金を財源とした基金事業の2本立てで第2期保全計画に示した各種事業を実施してきた。

しかし、この数年間、新型コロナウイルス感染症の拡大等により社会情勢は大きく変化した。

このため、これまで単独で実施してきた基金事業については、基金への寄付状況を考慮しながら、令和5年度（2023年度）では基金への寄付金を協会事業に繰り入れ、協会事業として一体的に第3期保全計画の実施に向けた各事業を実施していく。

また、冒頭にも述べたとおり、令和5年度（2023年度）は阿蘇地域世界農業遺産認定10周年を迎えることから、熊本県と連携して記念事業を実施し、阿蘇地域世界農業遺産の全国的な認知度向上と併せて、さらなる阿蘇地域の農畜産業の活性化を図る。

### <第3期阿蘇地域世界農業遺産保全・活用計画で定めた取組み>

#### 【1. 食料及び生計の保障】

##### 農林部会の活動

##### （阿蘇産農産物消費活動拡大）

阿蘇に来訪する観光客をターゲットに、阿蘇管内での活動を中心としたPR活動を行うことで、阿蘇産農畜産物の消費拡大やPRに取り組む。また、阿蘇産あか牛のブランド化による付加価値向上を図るとともに、地域住民の方に世界農業遺産を身近に感じていただくために、「阿蘇世界農業遺産フェア」や直売所等での販売活動を実施する。

#### 【2. 農業生物多様性】

関係機関と連携して実施。

#### 【3. 地域の伝統的な知識システム】

関係機関と連携して実施。

#### 【4. 文化、価値観及び社会組織】

##### 自然環境部会の活動

##### （伝えたい阿蘇の農業遺産資源）

現在までに登録した99の地域資源について、保全、継承、活用などの取組を実施する地元団体等に対して1団体あたり15万円上限の支援を行う。

#### 【5. ランドスケープの特徴】

##### （1）ランドスケープの保全・草原資源の活用支援事業（補助事業）【組み替え】

##### ①繁殖あか牛導入支援事業

草原再生協議会が実施している繁殖あか牛導入費用の一部を支援する。

##### ②野草利活用促進支援事業

採草面積の拡大とそれに伴う野草ロールの低コスト化を目指し、牧野横断的に採草を実施する草原オペレーター組織への支援を行う。

### ③野焼き再開支援事業

熊本地震の影響等で野焼きを中断している牧野組合のうち、野焼き再開に取り組む1牧野組合に対して50万円を上限とした助成を行う。

## (2) 草原景観部会の活動（委託事業）

### ①草小積み再生プロジェクトの実施

阿蘇の風物詩でもあった草小積みを復活させるプロジェクトを継続し、景観のアップと草原の利活用を図る。

### ②草資源利活用事業（茅刈プロジェクト）

草資源の更なる活用を図るため、阿蘇産の茅・ススキの茅葺き屋根材の産地化とブランド化に向けた事業をこれまでと同様に実施する。

## 【6. 変化に対するレジリエンス】

関係機関と連携して実施。

## 【7. 多様な主体の参画】

### (1) 文化交流部会の活動

（アグリツーリズムを通じた都市との交流拡大）

阿蘇地域世界農業遺産を通じた都市部との交流促進を図り、より多くの観光客に阿蘇を楽しんでもらえる取組みを実施する。

### (2) ホームページ・SNS等の運営

「阿蘇世界農業遺産クイズ」の実施など、年間を通して協会ホームページ・SNSでの積極的な情報発信を行う。

### (3) 関連イベントへの出展

新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、各種イベントへの出展、世界農業遺産の認知度向上や阿蘇地域のPRを行う。また、国内の世界及び日本農業遺産認定地域との交流を行う。

### (4) PR媒体作成

好評を得ている阿蘇地域世界農業遺産オリジナルトートバッグ等の媒体を作成し、世界農業遺産の認知度向上を図る。

### (5) 世界農業遺産国内認定地域連携会議

国内の世界農業遺産認定地域の市町村及び協議会が参加する世界農業遺産国内認定地域連携会議のシンポジウム等へ参加し、情報交換を行う。

※令和5年度は石川県能登地域が幹事地域。

## 【8. 6次産業化の推進】

世界農業遺産活用地域取組事業

各地域での世界農業遺産を活用した取り組み及び農林水産物等の6次産業化に取り組む団体等に対して、1団体あたり20万円を上限とした助成を行う

## <その他>

### (1) 10周年記念事業

阿蘇地域の世界農業遺産認定10周年を記念したイベントを実施する。

### (2) 周年事業等に備えた積立

協会全体の予算が減少している中、今後も周年事業といった大規模予算を伴うまとまった支出が定期的が発生することから、これに向けた対応として、毎年度、一定金額の積み立てを行う。



## 世界農業遺産認定 10 周年記念行事概要について(案)

### <1日目>

#### 【認定 10 周年記念シンポジウム】

13:30～17:15 (3時間45分 (休憩含む))

- 会場：阿蘇の司ビラパークホテル&スパリゾート (阿蘇市黒川)
- 日程：10月12日(木)～13日(金)
- 参加者：200名程度を想定
- 後援：農林水産省、FAO への依頼を想定
- 来賓：農林水産省、FAO 関係者、議員関係、認定時功労者 等
- 出席者：協会会長、県知事、阿蘇管内市町村長、宮本けんしん氏 (協会顧問) 等
- 内容：

(1)開会式・あいさつ (25分)

- ・阿蘇世界農業遺産推進協会長
- ・熊本県知事
- ・FAO (登壇もしくはビデオメッセージ)
- ・来賓挨拶 1名 (議員)

(2)寄付金感謝状贈呈式 (知事から) (15分)

- ・肥後銀行 ・酪連

(3)記念講演 (60分)

講演者：(公財)地球環境戦略研究機関理事長 武内 和彦 氏

(4)認定後 10 年間の取組み報告 (5分)

認定後 10 年間の取組みをまとめたスライドショー放映

(5)パネルディスカッション (90分)

テーマ：阿蘇の伝統的農業を未来につなぐために

コーディネーター：武内氏 (記念講演講師と連動)

パネリスト：阿蘇地域の生産者、流通関係者、学識経験者 等

【レセプション】 17:30～19:30

### <2日目>

【エクスカーション】 9:00～16:00

- ・阿蘇北エリアと阿蘇南エリアの2コース (阿蘇市はどちらにも含む) を想定
- ・添乗員は業者手配を想定

※GIAHS 認定 10 周年及び記念行事開催について、各市町村内における周知・広報へのご協力をお願いします。

## 第Ⅱ部座談会の進め方について

### <タイムスケジュール>

- 14:30～14:40 休憩中に、希望する会場にご移動  
(出欠連絡時に回答したテーマから変更可。  
リモート参加者はⅠのみ)。
- 14:40～15:40 話題提供各 2 事例
- 15:40～15:45 本会場 (大研修室) に移動
- 15:45～16:00 全体まとめ、閉会あいさつ

### <テーマⅠ 今後の牧野管理の仕組みづくりについて>

場所：大研修室＋リモート

- 話題 1 南阿蘇村における草原維持の取組について (野焼きプロ人材の認定制度及び保安林解除)  
南阿蘇村農政課 主幹 長野 智宏

### <テーマⅡ 野草資源の利活用促進について>

場所：中研修室

- 話題 1 茅刈りプロジェクトについて  
株式会社 GS コーポレーション 統括課長 山本 保孝
- 話題 2 野草を活用した肉用牛発酵 TMR の開発  
熊本県農業研究センター草地畜産研究所 研究員 小柳 藍夏

### 第 36 回阿蘇草原再生協議会 議事概要

- ・日時：令和 5 年 3 月 3 日（金）13:30～16:00
- ・場所：国立阿蘇青少年交流の家 及びリモート
- ・出席者：構成員 82 名（48 団体 53 人、個人 14 人、事務局 15 人）  
情報提供者 10 人、オブザーバー 5 人、報道関係者 4 人  
計 101 名 ※うちリモート参加 17 名

#### 1. 開会

- ・野焼きを明日明後日に控えているなか、たくさんの方にお集まりいただき、感謝する。
- ・安心して野焼きできる仕組みづくりなど、今後の草原再生に向けて、何をしなければならないのか、何が大事なのか、忌憚のないご意見をいただき、実現に向けて頑張っていきたい。

#### 2. 第 I 部 通常議事

##### （1）新規加入構成員および令和 4 年度役員の選任について

- ・資料 1 の新規加入希望者 4 者（八巻氏・郷氏・宮川氏・谷口氏）について加入承認。

##### （2）阿蘇草原再生募金の活動について

- ・周年放牧の北海道視察に対して、今回草原再生募金助成を申請した。事務局案の不採択理由として、「周年放牧はすでに阿蘇で行われているので、北海道まで視察に行く必要性を感じない」と書いてあるが、牛の専門家としては、北海道の状況は相当進んでいる。他方、阿蘇では放牧頭数は激減している。阿蘇の草原もスイスのように景観家畜として位置づけて、家畜を草原に放牧できる仕組みづくりが大切である。  
→非常に重要なことが提起された。畜産面からも強化していきたいので、ご指導をよろしくお願ひしたい。非常に大切な内容でありながら、原資があまりに少なく、なかなか申請額どおりに助成できず申し訳ない。募金をどう集めるかについても、今後力を入れていきたい。
- ・第 13 弾募金助成（その他活動）について、資料 2 のとおり事務局案を承認。

##### （3）安心して野焼きできる仕組みづくりについて

###### <野焼き延焼時の補償について（三井住友海上火災保険（株）からの説明）>

- ・弊社は、全国で地方創生の取り組みや SDGs の推進をしている。生物多様性保全や地下水涵養などにつながる、伝統ある阿蘇の野焼きにおいて賠償リスクが課題になっていると各方面からお聞きした。保険会社である弊社こそが課題解決に向けて動くべきだと考えて、保険を設計させていただいた。
- ・2 月 25 日から保険がスタートしている。野焼きを実施し、第三者である人、物に損害を発生させた際に、みなさまが負うべき損害賠償責任が法律上発生することになったら、上限 2 億円まで補償する、という制度設計。  
→保険の導入には大変感謝している。昨年、小倉原牧野で大きな延焼が起き、賠償交渉にかなりの心労があったと伺っている。保険交渉に保険会社からのサポートはあるのか？  
→仮に牧野組合が加害者となれば、牧野組合の方が被害者と交渉していただくことになる。

保険会社としては、加害者が被害者と交渉するときに、法的な賠償額がどうなるかといった助言をさせていただく。あくまでもサポートという形のご支援となる。

#### <その他意見交換>

- ・最近、TSMCの工場建設が話題になっている。大量の水を使う企業に対して、労力・資金両面で草原再生のリソースを確保できないのか。現在どのようなアプローチをしているのか。  
→2年前まで行われていた研究で、地下水がつながっていること、地下水を安定的に供給するためには草原や水田が重要であることが分かってきた。たくさん水を使っている企業へのアプローチについては、熊本県と連携する形を想定している。
- ・野焼きの炭素固定機能の科学的な検証と商品化させる取組が必要ではないのか。  
→野焼きをする草原の炭素固定機能は、北海道大学の当真教授の研究ですでに科学的に明らかになっている。協議会としては、カーボンクレジットとして、草原を維持する原資として使えないか検討を進めている。進捗があったら協議会で報告したい。
- ・茅草・飼料・堆肥・野草マルチなど、阿蘇の野草を資源として活用することで、本来の地域資源循環が構築されていく。阿蘇草原の公益的機能に着目した、様々な方策の実装に向けて今後も検討していく。  
→最近熊本では地下水に硝酸態窒素が増えてきており、畜産を少し冷たい目で見るとはならない。地下水保全も意識しながら同時に対策を考えていく必要があると思う。  
→家畜が一極集中すると問題が出てくるが、阿蘇では幸い広大な草原を利用する畜産がなされているので、クリアできるのではないかと考えていけば良いだろう。

#### (4) その他

- ・「阿蘇草原再生情報プラットフォーム」について、事務局より案内。
- ・ボランティアと地元牧野の協働で、年間一万束ほどの茅材が生産されている。2025年に開かれる大阪万博で、茅材が一万束以上必要とのこと。他の牧野もご検討いただければありがたい。

### 3. 第Ⅱ部 情報交換会

#### (1) テーマⅠ 持続可能な牧野管理や野草利用について>

##### <話題1：熊本県R4阿蘇草原維持再生ICT活用実証事業業務委託の実施内容について\_\_

九州電力株式会社熊本支店技術部>

#### 【発表要旨】

- ・本事業は、A：輪地切り作業の省力化とB：野焼き作業の安全性向上の2点構成。
- ・Aは、ドローンで除草剤を散布することにより、輪地切り作業の省力化を図るもの。実験の結果、8月ごろに散布を行い、0.5m程度の草に対しては非常に大きい効果があった。しかし、高さ1.5mくらいの茅などに対してはあまり効果が出なかった。
- ・Bは、①赤外線カメラ付きドローンを用いた飛び火の監視、②拡声機能付きドローンを用いた観光客への注意喚起、③気象アプリの予測等を用いた気象情報提供、の3点を実施予定。
- ・B①の実験の結果、赤外線の映像から火が燃えている場所がしっかり分かった。
- ・B②は、明日の草千里の野焼きで実験予定。半径200mくらいの範囲に音声が届く予定。
- ・B③では、気象センサーにより、様々な気象情報がリアルタイムで分かるようになっている。

気象予測アプリに登録することで、現地に行かなくても現地の気象状況がわかるようになる。

#### 【質疑応答】

- ・除草剤の成果が大きかったとのことだが、輪地切り作業をしなくてもよい状態になったのか。  
→50cm以下の草のところでは輪地切りをしなくてもいい状態。1.5mの茅では多少労力的に省力化できた程度。
- ・野焼きの監視等でドローンが使われる場合、どういう方が操縦することを想定しているのか。  
→自治体からオーダーをいただいて事業者が実施する形を想定している。
- ・除草剤に用いたラウンドアップの成分はと発がん性の物質。そういう危険なものを、九州の主要河川の、みんなが飲料水に使っている河川の元となる阿蘇の原野で使ってほしくない。試験でもだめだ。阿蘇のきれいなイメージを壊すととても悪い影響を与えている。

### <話題2：野焼きの専門家集団の育成事業について\_環境省>

#### 【発表要旨】

- ・本事業は、将来的には「野焼き専門家集団の育成」を見据えて、地元以外の火引き人材育成のモデル事業を実施するもの。実施手順としては、まずヒアリングを行って候補人材を確保し、座学とグリーンストックのトラスト地での火引き実習を行い、最後は各対象牧野組合の野焼きに参加する。いきなり火をつけるのではなく、今年度は火引き役に追尾する形を想定。
- ・今年度は、南阿蘇村の上二子石牧野と高森町の小倉原牧野を火引き実習の対象とした。難燃性衣服、ゴーグル、手袋、ヘルメット、日当及び交通費を支給する予定。南阿蘇村では地域おこし協力隊、高森町では野焼き支援ボランティアに打診した。ボランティアは火引きを行わないことになっているので、ボランティア活動とは明確に区別するべきと指摘されている。
- ・来年度以降は、数年かけてそれぞれの牧野で火引きの承継を図っていく予定。最終的には、受け皿となる集団づくりも検討が必要になってくる。

#### 【質疑応答】

- ・将来、たとえば10~20 くらいの牧野でやろうとすると、1人の人間では賄えない。将来的なプロ人材の運用面についてはどのようにお考えか。  
→まだきちんとした形は決まっていないが、担当が個人的にイメージしているのは、「Aさんならこの牧野になら火をつけられる」、「Bさんならこの牧野で火がつけられる」、というように人材バンクのような整理がしてあって、牧野組合から派遣要請がきたら、その牧野で火引きできる人に出勤してもらうことをイメージしている。それに受け皿となる組織が必要。
- ・地元の消防団など地元の人から後継者をみつけるのが最善ではないか。地元からまず育成すべきで、ボランティアに依存しすぎではないかという懸念がある。  
→牧野組合同士が協力する仕組みがあってもいいという意見も受けている。今回は、選択肢をひとつ加えられないかということで「地元を除く」とした。

### <話題3：引退馬の受け入れについて\_阿蘇グリーンストック増井氏>

#### 【発表要旨】

- ・グリーンストックの事業ではないが、引退馬協会から相談を受けたので、情報共有する。阿

蘇の草原で引退馬の放牧ができないかという相談である。

- ・日本中央競馬会（JRA）の競走馬は引退後、食肉加工されたりして良い余生を過ごしていない。しかし昨今、引退馬の余生をきちんと考える機運がJRAでも高まっている。携帯ゲームアプリ「うま娘」の利用者からの寄付もあって、引退馬をサポートする体制ができつつある。
- ・引退馬協会は、会員からの寄付で馬を全国各地の牧場への預託支援を行っている。引退馬協会が提携している牧場や法人に支援する形。1頭あたり1haの広さが必要とのこと。
- ・課題としては、ケガ防止のため、木柵を整備する必要があること。また、預かる馬がサラブレッドで引退後は気性が荒いので、扱うのが非常に大変という懸念もある。
- ・農山漁村振興交付金に牧柵整備という補助メニューが新しくできた。また、預託料もけっこうな金額をいただけるとのことで、新しい牧野の利活用の選択肢として、検討する予定。

#### 【質疑応答】

- ・検討を進めて、競争馬を原野で放牧することのメリットデメリットを今後教えて欲しい。

### ＜話題4：草原植物の活用と地域活性化への期待－緑化資材としての利用―

日本緑化工学会中村氏、ロンタイ株式会社＞

#### 【発表要旨】

- ・緑化資材として「地域性種苗」である草原植物を活用する可能性について研究を行っている。
- ・広葉樹や草本類については、緑化工事で使う植物をどこから調達すべきかという決まりはない。同じ種でも遺伝子の違いを考慮して緑化することが大切。ススキの場合、全国6つのエリアに区分され、阿蘇は九州エリアに含まれている。
- ・現在、工事の仕様書に植物種は輸入を基本とする規定があり、緑化に使われているのはほとんどが輸入植物。一方環境省では、国立公園では地域性種苗を活用する方針を決めている。
- ・ロンタイ株式会社では、国内産種子活用のお手伝いをしている。昨年から阿蘇地域で4種類の種子を採取して実証実験を行っている。ススキ、ヨモギが実に優秀な種である。ススキは、諸事情でほしくても手に入らない状況が続いており、シカの食害も受けにくいので、阿蘇産のススキを供給ができないか検討している。

#### 【質疑応答】

- ・草原の植物を活用することはものすごく良いことで、大賛成である。緑化資材の一部にビニールを使っているが、脱プラスチックにも配慮して貰いたい。そちらの取組みに対しても適応して貰ったら、私たちも喜んで資材として使っていきたい。  
→同じ規格サイズで、微生物によって完全に分解されるタイプの製品もある。
- ・ススキの種の発芽率は低いと聞いているが、試験でのススキの種の発芽率はどのくらいか？  
→いまのところ、およそ45%前後を確認している。

### （2）テーマⅡ 牧野の観光利用について

#### ＜話題1：牧野ガイド事業及びガイド事業阿蘇キッチンライドの紹介―

NPO法人ASO田園空間博物館、牧野認定ガイド清田氏＞

- ・牧野ガイド事業は平成30年の12月より活動を開始した。現在、認定ガイドが「牧野トレイルウォーク」「牧野トレイルラン」「牧野ライド（MTB）」と3つのプログラムを提供している。

- ・このプログラムの構築には、①牧野組合長とのルールの協議、②牧野組合との使用許可の協議、③許可をもらった牧野の現地調査（危険個所の確認など）、のステップが必要。
- ・認定ガイド・牧野ガイドになるには、「牧野ガイド養成講」「牧野のフィールド調査」のプログラムを受講したうえで、牧野組合長から認定される必要がある。
- ・牧野ガイドの主な役割には、①観光客への牧野の魅力の発信、②牧野の維持管理支援、③注意喚起（口蹄疫対策や火気厳禁など）が挙げられる。
- ・牧野ガイドが、参加料から一人あたり 1000 円を牧野保全料として徴収し、牧野に還元している。鉄柵の整備など様々な維持管理に活用して貰っている。
- ・ガイド受付の仕組みについては直接牧野ガイドに申し込む方法と、道の駅阿蘇に申し込む方法の2つのパターンを用意している。お客様から牧野組合長に連絡をすることはない。何月何日何時に何名入るといった情報を道の駅がとりまとめて牧野組合長に連絡する。勝手に牧野に入って案内をすることはない。
- ・牧野に入る時には必ず石灰を持って行って、靴の裏の消毒、自転車の消毒を行う。常に調理道具のみならず消火器や救急道具を携行している。帰りはゴミ拾いもしている。

## <話題2：自転車（マウンテンバイク）を利用した草原ツアー・トレイル整備\_\_ サイクルピットぐるり>

### 【発表要旨】

- ・阿蘇は、熊本空港から近く、都市圏からの利用者は日帰りツアーや1泊2日のツアーなどに気軽に参加ができる地理的ポテンシャルがある。既存の草原ライドだと北外輪山側がメインになるが、西原村や高森町、南阿蘇村にも牧野があり、多角的な草原利用が提供できると考えている。例えば、輪地だけを使ってただ走るためだけのコースや、草原の近くの森の中にコースを作って草原の景色が良いところを通るなどのアイデアがある。
- ・欧米では山岳地帯にトレイルが整備されており、歩行者や自転車・自動車の利用者もみんな利用している。国として国民の保健向上の一環でトレイルを整備しているが、土地が広大なので人が利用することで道が維持されていく仕組みにもなっている。また、牛に触れるか触れないかくらいの距離にある牧野内のコースを自転車で楽しむ事例もある。
- ・日本だと国土が狭いこともあって、自転車で走れる山岳エリアが少なく、登山利用とよくバッティングする。接触事故の危険があるので、山では自転車が走れないところが多い。牧野の輪地や作業道といったエリアをある程度ルールを設けた上で開放し、気軽に自転車で乗り入れたり、ウォーキングに使うことができれば、他地域との差別化が出来るのではないかな。

## <話題3：牧野ガイド2年間の活動内容と、実際に稼働して見えてきた今後の課題\_\_ あそたんガイドツアーズ>

### 【発表要旨】

- ・町古閑牧野の紹介で、牧野、林業、ガイド業を両立させている。ガイド業では、主に牧野ガイド、草原ライド、トレッキングといったプログラムを提供している。野焼き体験イベントも去年開催した。牧野は主に町古閑牧野を使わせていただいている。
- ・牧野に放牧地がある場合、入れないエリアが日によっても全然異なり、組合長やほとんど毎

日牧野にいらっしゃる牧番さんと必ずコンタクトを取って、その日使用していいエリアをしっかりと確認した上でツアーを行うようにしている。

- ・ ツアー料金について、草原ライドでは、2時間プラン 8,800 円、3時間プラン 11,000 円、1日プラン 15,400 円。草原トレッキングは、2時間プラン 5,500 円、1 DAY プラン 11,000 円。概ねツアー料金の 10%から 20%ほどを牧野保全料としてお支払いしている。昨年の集客数は、個人参加者 300 名、修学旅行利用 300 名の計 600 名ほどだった。
- ・ 今年は、クラブツーリズムから団体トレッキングの依頼があった。企業や海外からの参加者も多い。今後も需要が広がる観光形態であると実感している。
- ・ ツアーで案内している時に一般の方が立ち入っている場面に出くわすことが多かった。山菜採りで刃物を手に持ったまま逆に怒られてしまうこともあった。草原内が立ち入り禁止であるという看板の設置など、行政や地元の牧野の方の協力が得られたら良いと痛感している。
- ・ 牧野ガイドの意識改革も必要と感じている。放牧地や採草地にお客さんを案内しているガイドが散見された。牧野ガイドと牧野で情報共有する体制の整備が必要であると考えている。
- ・ 大型バスが駐車でき、トイレなど安全にツアーを行えるエリアが確保できたら、今後さらに団体を受け入れる可能性が広がる。興味がある牧野には是非連絡して貰いたい。

#### <話題 4 : 阿蘇でのドローンフィールドの事例と他牧野への展開の可能性について\_\_

##### 株式会社コマンドディー>

##### 【発表要旨】

- ・ 法的には、ドローン操縦に免許は必要ではなく、禁止事項に触れなければ飛ばせてしまう。ドローンを阿蘇で勝手に飛ばす人が減ることを企図して、「ここだったらドローンを飛ばしてもよい」というフィールドとして、2018 年に「南小国ドローン手形」という事業を始めた。
- ・ ドローン手形は観光地や牧野、瀬の本レストハウスなど、町内の 6 ヶ所で一日 3,000 円でドローンを飛ばせるというサービス。ドローンを飛ばしつつ観光してもらったコンテンツとして作った。2018 年から累計 500 人以上に利用されており、収益は観光協会（牧野）と弊社で分割している。大災害時に、ドローン調査員として呼べる可能性がある人が 500 人いることを意味しており、平時と有事の両面について有効な活動になっている。
- ・ 昨年の 7 月に阿蘇市に個人向けと法人向けの二つのエリアを追加した。最近増えているのが法人向け。ドローン製造会社のテスト飛行としての需要がある。テスト飛行ができる場所が国内には非常に少ない。阿蘇の草原は、柵があり無関係の人が入ってこないで見通しも良い。阿蘇の草原は、ドローン開発の為のフィールドとして非常に魅力的な環境。
- ・ 1 ヶ月程度借り続けたいという会社が 2 社あり調整中。長期的利用のニーズがある。相当額を収益として牧野に還元できる見込み。もう少し法人向きに大規模に飛ばしても構わない場所があるとありがたい。利用可能な牧野があればご協力いただけるとありがたい。
- ・ ドローンはひっきりなしに利用者がくるものではないので、少しずつ個別の問題点に対応して、牧野に迷惑がかからないようなルール・仕組みをつくらせてきていると考えている。

##### 【質疑応答】

- ・ ドローン利用の危機管理はどうなっているのか？  
→一般的には、ドローンのユーザー自身が保険に加入するケースが多い。ただ、保険をつけ



ていない可能性もゼロではないので、南小国町のドローン手形では、保険会社にプランをつくって貰い、弊社で負担している。利用料金に保険料も含まれている。

- ・どのようにしたら阿蘇でドローンが受け入れられて、参加料を牧野に還元させることができるのか。できれば、危機対策の認知などがもっと一般の人やドローン利用者に広がれば良いと感じている。

→全く同感。ドローン手形は出来る限り人目につきにくい、人が少ない場所を使っている。もっと飛ばせたら良い場所があるのだが、やはりどうしても既存の観光客の方が優先度が高く、人気の場所は避けるのが筋かなと考えている。

以上

令和5年度協議会スケジュール

	会合開催	構成員による活動	募金活動	関連する動き
R4 4月				
5月	(書面決議) 第93回幹事会		第13弾あか牛増頭 支援対象決定	
6月		(構成員より) ・R4年度活動結果報告 提出 ・R5年度活動計画案提 出(追加分)		
7月	各小委員会			
8月	8/8 第94回幹事会  8/31 第37回協議会 ・新規入退会・令和5年度役員の選任 ・募金委員会報告 ・各小委員会報告 ・座談会		・第13弾あか牛助成 追加募集の査定 ・第14弾活動支援に 向けた検討等	満喫プロジェクト R5第1回草原利用部会  ・阿蘇草原保全支援 システム事業 ・千年委員会 ・草原関係団体連絡 会議 ・国立公園管理運営 計画策定検討 ・国立公園満喫プロ ジェクト等
9月				
10月	第6回情報戦略会議	阿蘇草原再生レポート 2022 発行		
11月				
12月				
1月		(構成員より) ・R6年度新規活動計 画案提出	・第14弾支援対象 活動募集	
2月	第7回情報戦略会議  各小委員会		募金委員会  ・第14弾支援対象 活動審査	
3月	第95回幹事会  第38回協議会 ・第5回特別賞の授与 ・募金委員会報告 ・座談会	・R6年度新規活動計 画案承認	・第14弾活動支援 (あか牛以外) 対象決定	

## 第37回阿蘇草原再生協議会出席予定者名簿

2023年8月29日現在

&lt;団体・法人&gt;

	分類	氏名	所属団体、法人など	備考
1	区・牧野組合等	古吉秀生	黒川地区区長会黒川千丁区	
2	区・牧野組合等	志賀宗幸	三閑牧野組合	
3	区・牧野組合等	緑眞一郎	農事組合法人西小園原野組合	
4		浅久野弘明	〃	
5	区・牧野組合等 地元NPO/NGO等	市原啓吉	町古閑牧野組合 阿蘇草原再生シール生産者の会	兼任
6	区・牧野組合等	宇都宮克敏	上田第一牧野組合	
7		秋吉祥志	〃	
8	区・牧野組合等	三嶋智明	田ノ原牧野組合	
9		北里和教	〃	
10	区・牧野組合等	甲斐義朗	上二子石牧野組合	
11	区・牧野組合等	安方英人	小倉原牧野組合	
12	区・牧野組合等	本田信一郎	村山牧野組合	Ⅱ部テーマ2①話題提供者
13	区・牧野組合等	高橋英信	小森原野組合	
14		田中英雄	〃	
15	区・牧野組合等	秋吉一男	宮山牧野組合	
16		山口光明	〃	
17	地元NPO/NGO等	山本章夫	NPO法人ASO田園空間博物館	
18	地元NPO/NGO等 地元NPO/NGO等	中坊真	NPO法人九州バイオマスフォーラム 草原再生オペレーター組合	兼任 リモート参加
19	地元NPO/NGO等	永田紘樹	阿蘇ジオパーク推進協議会	
20	地元NPO/NGO等	竹原憲朗	阿蘇の自然を愛護する会	
21		岩下俊自	〃	
22	地元NPO/NGO等	岩本和也	野焼き支援ボランティアの会	(個人会員)
23		上野裕治	〃	(個人会員)
24		嘉藤和治	〃	(個人会員)
25		坂本晶子	〃	(個人会員)
26		高嶋信雄	〃	(個人会員)
27		舛尾義登	〃	(個人会員)
28	関係機関	高村英文	公益社団法人熊本県畜産協会	リモート参加
29	関係機関	牛田卓也	独立行政法人国立阿蘇青少年交流の家	
30	関係機関 行政 県	坂本琢	阿蘇地域世界農業遺産推進協会 熊本県農業・普及振興課	兼任
31	関係機関	松永辰博	阿蘇市観光協会	
32	関係機関	幸野亮太	熊本県阿蘇家畜保健衛生所	
33	関係機関	猪野敬一郎	熊本県農業研究センター草地畜産研究所	
34		小柳藍夏	〃	Ⅱ部テーマ2②話題提供者
35	その他団体	山本保孝	株式会社GSコーポレーション	Ⅱ部テーマ2①話題提供者
36		副島健史	〃	
37	その他団体	佐藤輝幸	公益財団法人 再春館「一本の木」財団	
38		松尾さおり	〃	
39	その他団体	友永康平	有限会社ひとちいき計画ネットワーク	
40	その他団体	齊藤 剛	株式会社地域環境計画 九州支社	
41		小山内朝香	〃	
42		増澤直	株式会社地域環境計画 NPO法人地域自然情報ネットワーク	兼任
43	その他団体	岡本公治	大和ハウス工業株式会社	
44		田中利彦	〃	

## &lt;団体・法人&gt;

	分類	氏名	所属団体、法人など	備考
45	行政 国	佐保一浩	農林水産省九州農政局 農村振興部農村環境課	リモート参加
46	行政 県	岸本佳代	熊本県企画振興部 地域・文化振興局地域振興課	
47		谷頭未来	〃	
48	行政 県	川路祥隆	熊本県企画振興部 文化企画・世界遺産推進課	
49		花田杜綺	〃	
50	行政 県	杉山英雄	熊本県県北広域本部 阿蘇地域振興局農林部林務課	
51	行政 市町村	森永英治	阿蘇市 経済部 農政課	リモート参加
52		冢入諭	〃	リモート参加
53	行政 市町村	窪田勇一	阿蘇市 経済部 まちづくり課	
54	行政 市町村	沼野英智	南小国町 農林課	
55	行政 市町村	上村英夫	産山村 経済建設課	
56	行政 市町村	長野智宏	阿蘇市 農政課	Ⅱ部テーマ1 話題提供者
57		飯干裕輔	〃	リモート参加
58		浅尾修作	〃	リモート参加
59	行政 市町村	山口凌	高森町 農林政策課	リモート参加
60	行政 市町村	松村玲実	西原村 産業課	

## &lt;個人構成員&gt;

61	地元農林畜産業	鶴林豊成		
62	地元関係者	坂梨仁彦	認定NPO法人バードリサーチ	
63	学識・研究者	柁田聖孝	東海大学農学部	リモート参加
64	学識・研究者	山下浩	九州沖縄農業研究センター	
65	学識・研究者	竹内亮	福岡女子大学	
66	学識・研究者	横川洋	九州大学	
67	学識・研究者	西脇亜也	宮崎大学農学部 自然共生フィールド科学教育研究センター	
68	学識・研究者	乙丸孝之介	鹿児島大学共同獣医学部 准教授	リモート参加
69	学識・研究者	中村華子	日本緑化工学会	リモート参加
70	学識・研究者	町田怜子	東京農業大学地域環境科学部	リモート参加
71	学識・研究者	高橋佳孝	一般社団法人全国草原再生ネットワーク 会長	

## &lt;新規加入&gt;

72	団体	永富傳次	狩尾南山原野管理組合	
73		下村善計	〃	

## &lt;来賓&gt;

74	団体	中村和正	三井住友海上火災保険(株) 熊本支店長	
75		木下大介	〃 熊本第二支社長	
76		浅野達也	〃 熊本第二支社課長	

## &lt;オブザーバー&gt;

77		山田雄二	ソフトバンク(株)	
78		内山彰	(一社)阿蘇のあか牛・草原牛プロジェクト	
79		井上智尋	福岡女子大学大学院生	竹内亮氏共同研究者
80		白石智宇	広島修道大学 助教	〃
81		宮永健太郎	京都産業大学 准教授	〃

## ＜協議会事務局、募金事務局＞

	分類	氏名	所属団体、法人など	備考
82	行政 国	築島明	環境省九州地方環境事務所	
83		笠原綾	〃	
84		下田耕一郎	〃	
85		三宅悠介	環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所	
86		山下淳一	〃	
87		飯田映美	〃	
88		藤田幸代	〃	
89		渡邊卓実	〃	
90		地元NPO/NGO等 (募金事務局)	山内康二	公益財団法人阿蘇グリーンストック
91	増井太樹		〃	
92	鷺津大輔		〃	
93	井上聡美		〃	
94	木部直美		〃	
95	その他団体 (事務局業務請負)	枝松克巳	株式会社メッツ研究所	
96		小島周作	〃	
97		白石海弥	〃	
98		野原大介	〃	
99		島田充子	〃	